

令和2年度 学校評価報告

草加市立氷川小学校

(令和3年2月1日作成)

1 学校教育目標	
「学びあい 助けあって 自分を高める」	
目指す児童像	○ひ ひかる汗 (体) 高めあう子 ○か 耀く瞳 (徳) 高めあう子 ○わ わかる喜び (知) 学びあう子
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○子どもたちが伸びる学校 ・基礎・基本の定着、授業時間の確保 ・一人一人のコミュニケーション能力の向上 ○子どもが生き生きとする学校 ・あいさつあふれる明るい学校づくり ・保護者・地域と共に歩む学校づくり ○幼保小中を一貫した教育の推進 ・谷塚中学校区一貫教育の強化・推進	成果 ○外国語活動・外国語の授業を中心に、話し合い活動を充実させ、児童一人一人のコミュニケーション能力が向上 課題 ●中学校区における児童の実態および各教科の系統性を踏まえた標準カリキュラムの作成

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○困ったら誰にでも相談できる人間関係ができている。 ●部会→運営委員会→職員会議の流れが簡素化しているのは良いが、話し合っ内容をも深めるべきことや共通理解が不十分な場合もあった。 ●校務分掌の負担を教職員全体で共有する仕組み作りが必要である。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○授業改善や指導力向上のための研修が行われたことで、学びが深まった。 ○若手教員が積極的に授業を行い、英語力・授業力が向上し、人材育成が進んだ。 ●組織的に研修に取り組んできたので、来年度以降、どのように生かしていくかが課題である。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○コロナ禍において、全学級で健康観察、環境衛生の取組がしっかりとされている。 ●危機管理マニュアルを教職員全体で読み合わせするなど、より一層備えに万全を期すことが必要。 ●アレルギー対応児童についての共通理解研修をより速い時期に確実に実施していきたい。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○校務支援システムの運用開始に伴い、臨時休校期間中等、テレワーク使用申請をした上で、自宅でテレワークを実施することができた。 ●特別教室の無施錠、電気の消灯忘れ等、教職員一人一人の確認不足が見られた。一人一人の意識の向上を図っていきたい。
	⑤地域との連携開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○情報教育部が定期的に学校のホームページ上に教育活動の様子や情報を掲載してくれているため、十分な情報発信をすることができた。 ●コロナ禍により地域に対して学校公開を十分に行えなかったが、学校ホームページ、その他ICT機器を効果的に活用して学校の情報を随時発信していきたい。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○コロナ禍の中で、幼稚園・保育園、中学校と交流・連携できる活動を精選し、工夫しながら活動することができた。 ○一貫教育推進のための組織を、小中連絡会を踏まえて整備することができた。 ●15年間を通じたカリキュラムの編成については、各学校児童生徒の実態把握から丁寧に取り組む必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○例年より早い2学期の開始やサタデースクールの活用により、授業時間が確保できた。 ○コロナ禍において学校行事等が非常によく精選された。今後も行事の精選は積極的に行っていききたい。 ●来年度以降、必要な学校行事を、コロナ感染拡大防止策を講じながらいかに工夫して実践していくかが大切である。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動・外国語については、教員研修を通して学校全体で指導力を向上させ、児童の学力向上につなげることができた。 ○例年取り組んでいたスーパーマーケット見学などが中止となる中、ICT機器等を用いて工夫して授業を行うなど、新しい手段を考える契機となった。 ●外部人材の活用ができなかった。 ●話し合い活動を十分に行うことができなかった。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童は、無言清掃の徹底、登下校時の校長先生やPTA、地域の方々による立哨指導により、規律を遵守やあいさつの大切さを日々学ぶことができた。 ●指導力には教員間で温度差があるため、夏季休業中等を活用して校内研修を充実させたい。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○市教委から3年間、研究委嘱を受けて研修を深め、指導方法の工夫と改善に努めることができた。 ○中学校の英語科の教員が毎週3日間、小学校に乗り入れ、担任およびALTと連携して授業を充実させることができた。 ○研究発表会にて、指導者から「評価」についてご指導いただき、その後の研修で共通理解を得ることが出来た。 ●外国語・外国語活動を通じて学んだコミュニケーションの力を横断的な視点で、国語科等他の教科に生かしていきたい。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○計画委員会を中心に、コロナ禍の中でも、できる範囲で活動していたのが良かった。 ●コロナ禍において、実施できないものも多くあったが、今後どのような形で実施できるか工夫を検討したい。

⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○自然教室や外部講師の活用等、コロナ禍により中止になったが、休校期間中を活用して計画を立案することができた。</p> <p>●調べたものをまとめて発表する活動が中心である。より一層深い学びにつなげるために、指導内容、指導方法を学校全体で検討していく必要がある。</p>
⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導主任、教育相談主任、特別支援教育コーディネーター、学年主任等が中心となって指導する一連の流れに、教職員の連携のよさを感じた。その上で、最終的に管理職が対応することができ、組織で動くことができていた。</p> <p>○保護者、地域、諸機関と迅速に連携が図れていた。</p> <p>●児童が基本的なルールを守れるように、具体的な手立てを講じて、全教職員が共通理解・共通行動で取り組んでいきたい。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 	B	<p>○キャリアパスポート実践初年度、学校全体で取り組むことができた。</p> <p>●低・中学年の発達段階に合わせたキャリア教育の取り組みが不十分である。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<p>○特別支援コーディネーターが積極的に動いて学級担任に働きかけていたことで、校内支援体制が確立されていた。</p> <p>●交流活動が十分に実施できなかった。やり方を工夫して実施していきたい。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 	A	<p>○学校司書が、消毒や本の配架、図書室の使い方内等について、丁寧に対応していただき、安心して利用することができた。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○ICT機器を活用しての授業が増加した。それに伴う児童への効果の高さも実感した。</p> <p>○外部人材を計画的に活用して、タブレット操作の補助やプログラミング教育を実施できた点は今後も継続していきたい。</p> <p>○Zoomの活用は、3密対策としては効果的であった。</p> <p>●GIGAスクール構想に沿って、ICT機器の活用について計画的に研修に取り組む必要がある。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○コロナ禍においても夏季休業中を活用して校内研修を実施し、全教職員で事例検討等を行うことができた。</p> <p>○人権ポスターや標語等に多くの児童が意識して取り組むことができた。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・家庭学習の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍における学校行事等の精選により、朝行事の時間を含めて、落ちついて読書をする時間を十分に確保することができた。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点に立って、体育科や家庭科の年計を柔軟に組み替えて対応することができた。 ●県学調の質問紙調査等から明らかなる児童一人一人の学習方略や非認知能力の結果を、日頃の学習指導や家庭学習に生かせるように、理解を深めていきたい。
	コミュニケーション力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・指導方法の工夫と改善 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語・外国語活動を通じて思考力・判断力・表現力を養い、コミュニケーション力の向上につなげることができた。 ○コロナ禍で、話し合い活動に制限はあったが、飛沫感染防止ボードやICT機器を活用して児童個々の考えを深めることができた。 ●外国語・外国語活動を通じて身に付けたコミュニケーション力を、他の教科だけでなく、日常生活の中で生かせるように研修を深めていきたい。
	生徒指導・教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に引き続き、児童の問題行動等については、全教職員で報告・連絡・相談が徹底され、即日対応に当たることができた。 ●いじめの防止や早期発見・解決だけでなく、解決後の経過観察を全案件で徹底できるようにしていきたい。

<p>5 総合評価（学校関係者評価を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が児童一人一人を大切にできる温かみを感じることができる。丁寧な声かけ、支援ができています。 ・朝会やわんぱくタイムがなかったせいか、朝の時間にゆとりがあり、学級指導がしっかりとできた。 ・感染症対策を中心に教育活動が進んだので、良かった。 ・コロナウイルスの影響がある中で、学校行事を計画したり、授業時数を確保できたりしていた。研究発表では多くの人が足を運んでくださり、成果を見せることができた。 ・コロナで、できないものを補ったり、別のものに置き換えたり、指導の工夫が図られた。 ・保護者対応では、管理職を含めた、たくさんの先生方に対応いただくなど、複数の目で解決に繋がっていきました。その他の生徒指導の案件でも、特支の観点なども合わせて複数の職員で対応していると感じました。生徒指導で気軽に相談し、複数の目で対応できる場所は、氷川の職員の風通しの良さを表していると思います。外国語の研究発表に向けた研修等では、全職員の外国語の指導力の向上につながったと思います。 ・外国語活動・外国語科を通したコミュニケーション能力、表現力、意思伝達能力等が身についたことが素晴らしい。国でも県でも言われている「グローバル化に対応できる児童の育成」が実現できている。 ・Zoom 配信をかなり活用したため、教職員の ICT への関心が高まり、機器を使いこなすことができるようになった。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、地域や家庭に尽力頂き、日々の教育活動を推進することができた。 ・コロナ禍で不安な部分もあったが、子どもたちは安心して学校生活を送ることができた。（学校関係者） ・学校公開等が難しい年度ではあったが、授業参観等を工夫して実施するなど、児童の様子が見られてよかった。（学校関係者）
<p>6 次年度の改善策</p> <p>【新型コロナウイルス感染拡大防止について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が来年度も続くことを見越して、朝行事やチャレンジタイム、放課後の日課等について見直しを図っていきたい。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点に立って、単元の入替えや時数の配分等、実態に即して年間指導計画を各教科で作成していく。 ・感染防止対策については、令和2年度末に成果と課題をまとめ、次年度に引き継ぐ。 <p>【残業時間削減策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残業時間の削減には、一人一人が意識できるかが大切。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、「時間」と「場所」を上手に活用して計画的に放課後の時間を活用し、作業効率を高められるようにする。 <p>〈新型コロナウイルス感染防止策 ⇄ 残業時間低減策〉相乗効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3密を避け、短時間を意識して仕事をするように心がける。一方の対策を講じれば、もう片方の策にも効果が期待できる。 ・あらかじめ学年会や各分掌の打合せ、複数人で取り組む作業時間等が分かっているならば、それ以外の時間を教材研究等、自分の時間に活用できます。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ①学年会や分掌打合せ等は見通しをもって計画的に取り組む。 ②会議、打合せは時間を決めて、職員室以外の場所で実施する。(3密対策と合わせて) ③職員室では極力、教材研究等、個人作業に集中できるように一人一人が配慮する。 </div> <p>【研修について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想の実現に向けて、年間を通じて ICT 機器の活用について、全教員で理解を深めていく。 ・幼保小中一貫教育の視点で、15年間を見通したカリキュラム編成を中学校区で編成していく。 <p>【業務負担軽減について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化を推進していく。